

安全

626万人

これまで日本国内において延べ600万人以上のお客様に交通安全・運転教育を実施。
全世界において、積極的に拡大しています。



基本的な考え方

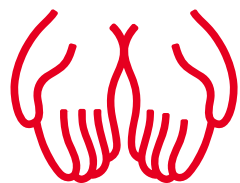
事故に遭わない社会へ

創業者・本田宗一郎の「交通機関というものは人命を尊ぶものである」という言葉にあるように、Honda は共存安全思想のもと、クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使う誰もが安全でいられる「事故に遭わない社会」の実現をめざしています。

Honda の安全への取り組みの歴史は古く、1960 年代にまでさかのぼります。日本のモータリゼーション発展期の、「安全運転」という明確な概念もなかったこの時代に、二輪車・四輪車メーカーで初の試みとなる安全運転普及活動を開始し、その後、「運転席用 SRS エアバッグシステム」、世界初の「歩行者ダミー」、自分だけでなく相手の安全も守る「コンパティビリティ対応ボディ」などの技術を開発。2000 年には、世界初の「屋内全天候型 全方位衝突実験施設」を建設し、現実の事故形態により即した衝突テストを行っています。

こうして生み出された安全技術は積極的に各製品に適用しているほか、歩行者ダミーについては、交通社会全体の安全向上のため、その使用を Honda での製品開発に限定せず、他社や研究機関に貸し出すなど、歩行者保護の研究に広く貢献しています。

Honda は、その時代、その地域が抱える事故の実態を見据え、積極的に交通安全に取り組んでいます。



safety

活動の方向性

Honda は「事故に遭わない社会」の実現をめざし、「ヒト（安全運転教育）」「テクノロジー（安全技術）」「コミュニケーション（安全情報の提供）」という 3 つの領域において、安全推進活動を行っています。

しかしながら交通環境の問題点は、「交通が集中し過ぎている」「インフラが整備されていない」といったように、地域によってさまざまです。そこで Honda は、各地の実情に応じて、「ヒト」「テクノロジー」「コミュニケーション」それぞれの領域を組み合わせ、取り組みを展開しています。

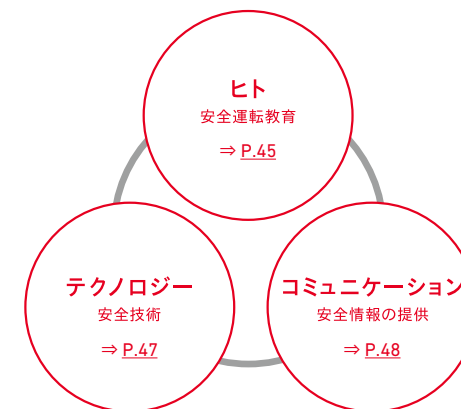
例えばタイでは、アジアのなかでもとくに交通事故死亡者数が多く、安全対策が喫緊の課題となっています。Honda は 2016 ~ 2020 年、タイにおける約 1,000 件の交通事故情報を収集・分析する詳細調査を実施することにしました。この調査では、まず交通事故を引き起こす根本的な原因を突き止めます。そうして蓄積した知見をもとに、「ヒト」分野においてより適切な安全運転普及活動を展開し、「テクノロジー」分野においてさらに効果的な安全技術の開発へとつなげていく予定です。この取り組みは、アジア・大洋州の各地域にも順次拡大していきます。

グローバルスローガン

Safety for Everyone

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使う誰もが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい

安全推進活動の
3つの領域



安全に関する取り組み

ヒト（安全運転教育）

Honda のアプローチ

Hondaは、1970年に安全運転普及本部を開設しました。以来、交通安全教育センター※をはじめ、二輪車・四輪車・汎用製品の販売会社や、地域の企業や学校の皆様と協力しながら、これまで日本国内において延べ600万人以上のお客様に交通安全・運転教育を実施してきました。

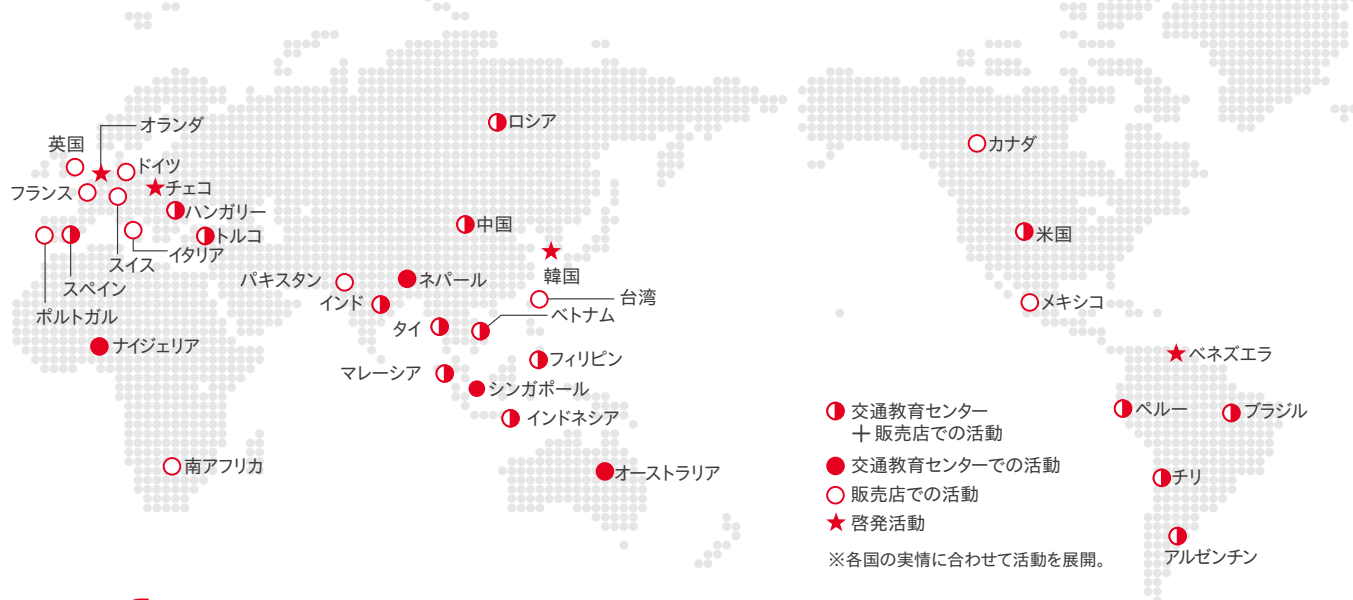
活動は、人に焦点を当てた「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本として、3つの柱を立てて活動しています。1つめは、交通安全の担い手である指導者を育成する「人づくり」。2つめは、交通

安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供する「場づくり」です。3つめは、学習効果を高めるための教育プログラムや教育機器を開発する「ソフトウェアの開発」です。

海外においても、1972年にブラジルで安全運転普及活動を開始して以来、各国に交通安全センターを設置したほか、地域の販売店と協力するなど、日本を含む世界36カ国で活動を実施しています。そのなかでも、とくに新興国では、急速なモータリゼーションが進む一方で、法規制や交通ルール、道路インフラなどが未整備な地域があり、交通死亡事故発生件数の増加が社会課題となっていることから、Hondaでは、当該国や自治体関係者と連携しながら活動を強化しています。

※交通安全に関する社内外の指導者養成や、企業・学校・個人のお客様に安全運転教育を行うHondaの施設。

交通安全・運転教育の実施国

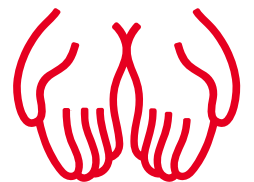
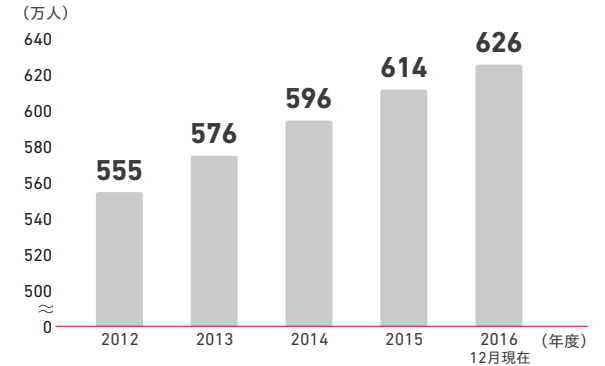


2016年度の活動実績

2016年度は、「先進性・独自性のソフト開発による、戦略的な普及活動への転換」という方針のもと、「教育ソフトウェアの開発と導入」「普及活動の変革と進化」「海外における二輪事故低減の実現」の3つの重点課題に取り組みました。

「教育ソフトウェアの開発と導入」では、SAFETY MAPの情報をもとにした道路環境の改善提案により、1件でも事故を減らすための取り組みを進めています。交通事故防止対策の推進に関する協定を、2016年3月に大阪府警察本部と、12月に長野県警察本部と締結。活用領域が広がっています。

日本における安全運転普及活動動員数（累計）



安全に関する取り組み

また、子どもたちが交通安全について「学ぶ」ことに加え、「楽しい」「おもしろい」と感じられるような新たな幼児向けの交通安全教育プログラムを開発し、普及を始めています。

「普及活動の変革と進化」では、脳卒中などにより高次脳機能障がいとなった方がクルマの運転を再開するために、運転の可否判断をサポートするためのソフトやプログラムを開発し、普及に努めています。

お客様との接点である Honda Cars（四輪販売会社）でも、各社の交通安全活動の活性化を進めています。その一環として、Honda Cars 各社のショールームへご来店いただいたお子様や近隣にある幼稚園・保育園の園児を対象に、Honda の幼児向け交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」を活用した交通安全教室を行うなど、地域に密着した活動を展開しています。

「海外における二輪事故低減の実現」では、安全な交通社会をめざす海外事業所の二輪指導者養成のために、養成研修の内容を刷新しました。この新しい研修はこれまでにインド、インドネシア、台湾、中国、タイの二輪事業所の指導者へ実施され、今後、現地での活動展開が期待されます。



全国各地の Honda Cars がショールームや近隣の保育園・幼稚園で実施している交通安全教室「あやとりい」

T O P I C S

タイ、トルコで新たな安全運転普及活動がスタート

Honda はモータリゼーションの進展に合わせ、安全運転普及に関する新たな取り組みを始めています。タイの二輪販売会社イー・ピー・ホンダカンパニー・リミテッド（A. P. Honda）は、タイ国内に安全運転の活動拠点である交通教育施設 2 拠点に加え、2016 年新たに 2 拠点をチェンマイ、ブーケットに設置しました。この施設では、従来のコンピューター向けに加え、今後タイで成長が期待されている大型バイクの安全運転講習を実施。またオフロードコースも併設するなど、お客様が安全を楽しく学べるようプログラムを強化しています。

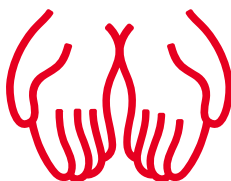
また、トルコのホンダターキー・イー・エス（HTR）では、2005 年から安全運転普及活動を開始しました。交通教育センターや大学で各種研修やイベントなどの安全運転普及活動を実施しています。2015 年 11 月からは、子ども向け交通安全教育プログラム「あやとりい」を導入し、2016 年末までに HTR 近辺の小学校 18 校 2,291 名の生徒、および HTR 従業員の子どもたちに教育を実施しています。今後は対象地域をトルコ全域へと広げ、このプログラムを通して「止まる」ことと、「見る」ことの大切さを子どもたちに伝える活動を拡大していきます。



タイの交通教育施設（左：チェンマイ、右：ブーケット）



トルコでの子ども向け交通安全プログラム「あやとりい」



安全に関する取り組み

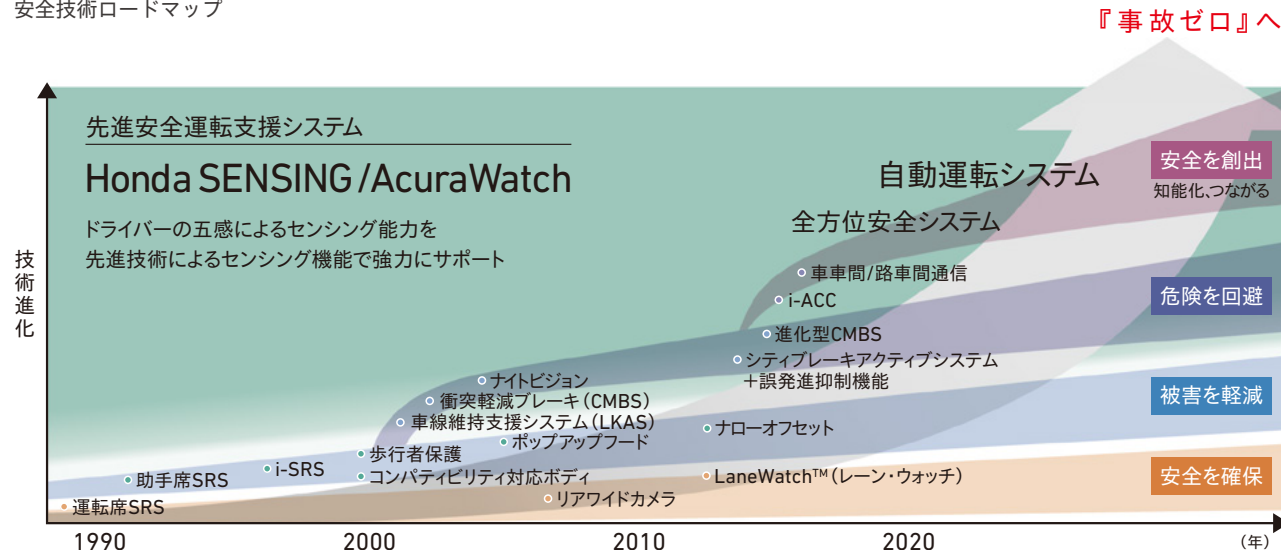
テクノロジー（安全技術）

Honda のアプローチ

Honda は、二輪車・四輪車などさまざまなモビリティが混在する現実の交通環境、リアルワールドでの事故の実態を重視し、規制を超える高い目標をつねに掲げ、「無いものはつくる」という姿勢で安全技術の開発に取り組んできました。

1998年には業界に先駆けて世界初の歩行者ダミーを開発、2000年には世界初の屋内全天候型 全方位衝突実験施設を建設しました。また、2003年にはコンパティビリティ対応ボディと、世界初の「衝突軽減ブレーキ (CMBS: Collision Mitigation Brake System)」を開発するなど、安全技術を次々と開発し実用化しています。

安全技術ロードマップ



2014年には、新たに先進安全運転支援システム「Honda SENSING」/「AcuraWatch」を発表しました。Honda SENSING/AcuraWatchは、センサーなどを活用し、車両の周辺情報をもとに、通常走行時から事故回避まで運転を支援する、将来の自動運転技術につながる先進安全技術の総称です。

Hondaは、道路を使う誰もが安全でいられる「事故に遭わない社会」の実現をめざし、四輪車の安全技術ロードマップ(下図)のように、今後も着実に技術開発を進めていきます。

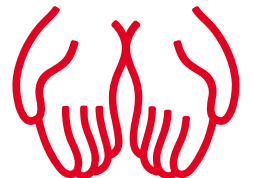
2016年度の活動実績

2015年に日米欧の3地域で発売した、先進安全運転支援システム Honda SENSING/AcuraWatchは、搭載機種数の拡大を続けています。

日本では「フリード」「フィット」に、米国では「CR-V」「オデッセイ」に、欧州では「シビック」に、中国では「エリシオン」「アヴァンシア」に、タイではシビックに新たに搭載しました※。Honda SENSING/AcuraWatchを構成する技術としては、歩行者を検知してステアリングを制御する世界初の「歩行者事故低減ステアリング」、車両が車線を逸脱しそうな場合にステアリングを制御する「路外逸脱抑制機能」などがあります。

2016年9月、「G7長野県・軽井沢交通大臣会合」が開催されました。これは、日本が議長国となるG7伊勢志摩サミットの関連会合の一つであり、本会合では「自動車及び道路に関する最新技術の開発・普及」と「交通インフラ整備と老朽化への対応のための基本的戦略」について議論が展開され、大臣宣言が発表されました。本会合における会場間の移動の際、Hondaの自動運転車「アコード」にドイツのドブリント大臣が、「クラリティ FUEL CELL」にフランスのプーパール総局長が乗車されました。Hondaは、高速道路での自動運転デモンストレーション実施など、自動運転技術の研究開発を進めており、2020年頃までには高速道路で実用化することをめざしています。

※Honda SENSING/AcuraWatchは、搭載する車種により適用技術が異なる場合があります。



安全に関する取り組み

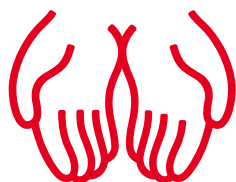
コミュニケーション (安全情報の提供)

Honda のアプローチ

Honda は、1998 年に通信機能を備えたカーナビゲーションシステム「インターナビ」の提供を開始し、Honda 車から得た走行データを活用した渋滞情報の提供を始めました。こうした便利さに加えて、Honda は 2004 年から気象情報を、2007 年からは災害情報を提供するなど、通信と情報を融合させたテレマティクスサービスを活用して、ドライバーのより安全で快適な運転を支援する情報の提供を開始しました。

その進化の一つのかたちとして、日本では、クルマの急ブレーキ情報や、警察や自治体からの交通事故情報、地域の人々から提供された道路情報などを統合・解析し、ドライバーを含めた地域の人々にあらかじめ危険な場所を知らせる「SAFETY MAP」を作成。多くの人々にご活用いただいています。

また、現在は Honda SENSING/AcuraWatch の技術とテレマティクスサービスを融合させ、センサーや GPS を搭載したほかのクルマやバイク、さらに周囲の人々が持つスマートフォンを Wi-Fi などの無線通信で結び、周囲の交通状況や交通事故のリスクをリアルタイムで情報提供する仕組みづくりに注力。誰もが安心して運転・歩行できる「事故に遭わない社会」の実現をめざしています。



safety

第三者評価

Honda のアプローチ

Honda の多くの車種が、各地域の NCAP^{※1}において、高い安全評価を獲得しています。また、日本では、JNCAP 予防安全性能アセスメントにおいて、フリードが最高ランクとなる「ASV+」^{※2}の認定を、米国では、IIHS^{※3}の安全性能アセスメントにおいて、複数の機種が安全性に優れた車として「TSP」「TSP+」の認定を受けました。

※1 New Car Assessment Program (新車アセスメントプログラム)。各地域の公的組織が行う、自動車の安全性能を試験・評価するプログラム。各地域で試験方法、評価方法が異なる。0★～5★(地域によっては5★+が最高評価)で評価される。

※2 Advanced Safety Vehicle の略。衝突が避けられない場合に自動でブレーキをかける技術など自動車の先進安全性能を試験・評価する。ASV、ASV+、ASV++の3段階評価で認定される。

※3 Insurance Institute for Highway Safety (米国道路安全保険協会)。自動車の安全性能を試験・評価する自動車アセスメントを行い、試験結果が優良な自動車のみを TSP、TSP+ で評価。TSP は、Top Safety Pick の略。

主な第三者評価結果 (2016 年テスト実施)

国・地域	第三者評価	機 種	
日本	JNCAP	5★	シャトル / フリード
		ASV+	オデッセイ ^{※5} / シャトル ^{※5} / ヴェゼル ^{※5} / N-Box ^{※5} / N-WGN ^{※5}
		ASV++	フリード
欧州 ^{※4}	Euro NCAP	5★	
中国	C-NCAP	5★	スピリア / シビック
米国	NCAP	5★	シビック 2Dr / シビック 4Dr / シビック 5Dr
		TSP+	アキュラ MDX / アキュラ RDX / アコード 4Dr / パイロット / リッジライン
		TSP	アキュラ RLX / アキュラ ILX / シビック 2Dr / シビック 4Dr / アコード 2Dr
オーストラリア ^{※4}	ANCAP	5★	
東南アジア	ASEAN NCAP	5★ ^{※6}	BR-V / シビック

※4 2016 年の評価実績なし。

※5 評価基準の変更に対応して再テスト。

※6 乗員 (大人) の保護性能。

T O P I C S

「ASEAN NCAP グランプリアワード」で

10 の安全賞を獲得

2016 年 11 月、Honda は ASEAN NCAP グランプリアワードの安全性能評価で、10 のアワードを受賞しました。

シビックは、「成人乗員保護性能」と「子ども乗員保護性能」の両方で、中型ファミリーカーカテゴリーにおける最高の安全評価を獲得しました。

自動車メーカー部門の「安全技術賞」では、年間最優秀安全支援技術として先進安全運転支援システム「Honda SENSING」が受賞しました。

また ASEAN の 7 カ国で「Most Affordable 5-star Car Award (最も手頃なファイブスター賞)」を獲得しています。

10 もの賞の獲得は異例で、Honda は今回のイベントで最多の賞を獲得したメーカーとなりました。今後も「事故に遭わない社会」の実現をめざし、さらなる安全と快適の実現に向けた努力を継続していきます。